

木次線開業100周年を迎える

J R 木次線は大正5年10月、簸上鉄道(株)として宍道～木次間を開業してから、今年で100周年を迎えました。

これを記念して、10月8日、木次線開業100周年記念事業実行委員会(委員長:勝田町長)主催の記念式典がJ R 木次駅で開催されました。

トロッコ列車「奥出雲おろち号」の出発図では、記念ヘッドマークを付けたおろち号の出発を多くの来場者が手や旗を振りながら見守りました。



多くの来場者に見守られ出発

尾原ダム・さくらおろち湖まつり2016

10月16日、さくらおろち湖のボート競技施設をメイン会場とした『尾原ダム・さくらおろち湖まつり2016』が開催されました。当日は約2,000人が会場を訪れ、奥出雲をはじめとする地元産グルメやステージイベントを楽しみました。

地域おこし協力隊員が開催したペットボトルロケット製作・発射体験には約40人が参加しました。完成したロケットを湖面に向けて発射すると、きれいな弾道を描いたり、回転しながら飛んで行ったりと、それぞれの個性が現れていました。



湖面に飛んでいくペットボトルロケット

平成28年度鳥根県種畜共進会

10月22日、松江市宍道町の鳥根中央家畜市場で平成28年度鳥根県種畜共進会が開催されました。

奥出雲町を代表して、肉用種牛の部に7頭、乳用種牛の部に3頭が出品され、佐藤治巳さん(亀嵩)の出品牛「やどてるふじ」号が肉用種牛・第3区若雌牛で首席になり、グランドチャンピオンも獲得されました。

また、他の出品牛も多く上位入賞を果たし、奥出雲町の名声を高めました。

これからも地域をあげて優良牛の飼養頭数の確保に取り組んで参ります。



グランドチャンピオンになった「やどてるふじ」号

第11回全国和牛能力共進会に向けて

10月25日、松江市宍道町の鳥根中央家畜市場で第11回全国和牛能力共進会第5区繁殖雌牛群の鳥根県代表地区選抜会が開催されました。

出品条件をクリアした4頭1群で、斉一性や体積が優れた群を出品した地区が、鳥根県の代表地区となります。

奥出雲町からは6頭が出品され、雲南市・大田市と代表を争い、見事に県代表地区に選ばれました。

来年9月に宮城県で開催される第11回全国和牛能力共進会に向けて、更に磨きをかけていくことになります。



県代表に選出された6頭

平成28年度奥出雲町

良質米品評会

米生産者の皆様からは、134点の米をご出品いただきありがとうございました。厳正な審査の結果、次の方々が各部門で受賞されました。今後とも、生産農家の皆様には高品質で良食味の仁多米生産に努めていただきますようお願いいたします。

うるち米の部(出品数101点)

最優秀賞 大坂 茂さん(三沢)
優秀賞 景山 和広さん(三成)
糸原 良一さん(横田)
若槻 康春さん(亀嵩)
(農)三森原(八川)
加納 篤さん(馬木)

もち米の部(出品数24点)

最優秀賞 内田 芳幸さん(布勢)
優秀賞 (農)くびす(亀嵩)
藤原 恒子さん(阿井)
糸原 功さん(八川)

酒米の部(出品数9点)

最優秀賞 石原 吉徳さん(八川)
優秀賞 影山 豊幸さん(阿井)
優良賞 米原 茂利さん(亀嵩)



受賞された方々

仁多米ブランド特別賞

(荷受戸数491点)
最優秀賞 久村 喜治さん(横田)
優秀賞 藤原 耕治さん(横田)
優良賞 藤原 光則さん(阿井)

※仁多米ブランド特別賞

今年度、仁多郡カントリーエレベーターに出荷されたコシヒカリを対象とし、審査基準は、①堆肥施用 ②食味値 ③整粒歩合 ④荷受重量の4項目を総合評価し、「売れる仁多米」として、上位3名を表彰するものです。

日本遺産

出雲國たたら風土記 鉄づくり千年が生んだ物語

連載その3…神々が伝えるたたら製鉄

優れた技術に基づいたたたら製鉄は、私たちの暮らしの中で重要な産業であり続けてきました。その技と歴史の始まりは「ヤマタノオロチ神話」と鉄の神様「金屋子神」の神話によって彩られています。

ヤマタノオロチ神話と たたら製鉄 出雲神楽

私たちは、スサノオのヤマタノオロチ退治神話の世界を、神楽を通じて体感することができます。出雲地方では、この神話に登場するヤマタノオロチを砂鉄採取の影響で氾濫する川になぞらえ、退治したオロチから取り出された剣を製鉄の象徴に、イナタヒメは砂鉄採取の跡地に拓かれた稲田に見立て、「たたら製鉄の歴史」と重ね合わせながら語り継いできました。この神話は、神代の時代からたたら製鉄がこの地域の生活や文化と切り離すことのできないものであったことを表しています。

鉄の神様を祀る 金屋子神社

安来市広瀬町には鉄の女神様「金屋子神」を祀る金屋子神社の総本社があります。金屋子神は現在の兵庫県からシラサギに乗って広瀬町西比田にやって来て、この地にたたらを伝えました。人々は金屋子神にお参りし、製鉄や鍛冶などの仕事の成功を祈ってきました。たたら製鉄が盛んであった江戸時代から明治時代には、中国山地をはじめ大阪、四国、九州でも信仰されました。金屋子神社の鳥居や灯籠には各地の信仰者の名前が刻まれており、信仰の広がりを知ることができます。一方、金屋子神には興味深いエピソードがいくつもあります。例えば、好物であるミカンをいただく、無病息災で過ごせると言われています。